

# 特集 幸田の生態系が危ない！



「外来種」って何だか知っていますか？

## 町内で問題の外来種

今回は、町内で特に見かける事が多くなった外来種について、実際に町内の川で撮影した写真と共に紹介します。

農業用水路やため池で見かけるミドリガメや道ばたに群生するオオキケンケイギク、レジャーフィッシングで人気のブラックバスなどは、私たちの生活の身近な場所で見ることのできる動植物です。しかしこれらの動植物は、本来、日本に生息しない「外来種」と呼ばれるものです。

## 外来種と在来種について

本来の移動能力を超えて、人の活動によって、意図的・非意図的に移動させられた生物「外来種」は、その地域に元から生息していたその地域固有の生物である「在来種」と区分されます。

現在、日本には明治時代以降に日本に入ってきた生物のうち、およそ千九百種の外来種が定着しているといわれています。

## 特定外来生物と要注意外来生物

外来種はその中でも、特に生態系、人の生命・身体や農林水産業に被害を及ぼしたり、及ぼすおそれの

あるものを特に「特定外来生物」として環境省が指定しています。外来生物法によって、平成十七年から平成二十五年の間に一〇七種類が指定されています。なお、特定外来生物とは、その個体はもちろん、卵や種子等も含まれています。

また、特定外来種には指定されていませんが、生態系や人の生活への影響などがまだよく分からない外来種は「要注意外来生物」として、現在一四八種類があげられています。

## 罰則について

特定外来生物は「飼う」「動かす」「放す」「売る」「あげる」などの行為が規制されています。

許可のない輸入、販売、野外に放つ等の行為をした場合には、個人には三年以下の懲役や三百万円以下の罰金。法人には一億円以下の罰金が科せられる場合があります。

それでは、今回、町内の川などで撮影した写真で、身近にいる外来種について見ていきましょう。

# ①カダヤシ 「特定外来生物」

一九一六年に台湾から奈良県へ蚊の駆除を目的として日本にやってきました。蚊の幼虫「ボウフラ」を食べ、蚊を絶やすという意味から「蚊絶やし（カダヤシ）」と呼ばれています。メダカにそっくりですが、直接稚魚を産む卵胎生のため、コンクリートの川でも増えます。成長が非常に速く、メダカの生息地にカダヤシが侵入した場合、在来メダカがカダヤシに置き換わってしまう事もあります。

そのため最近では、町内の河川でメダカを見る機会はずりありません。カダヤシとメダカの違いを確認してみてください。水槽のメダカ、カダヤシではありませんか？

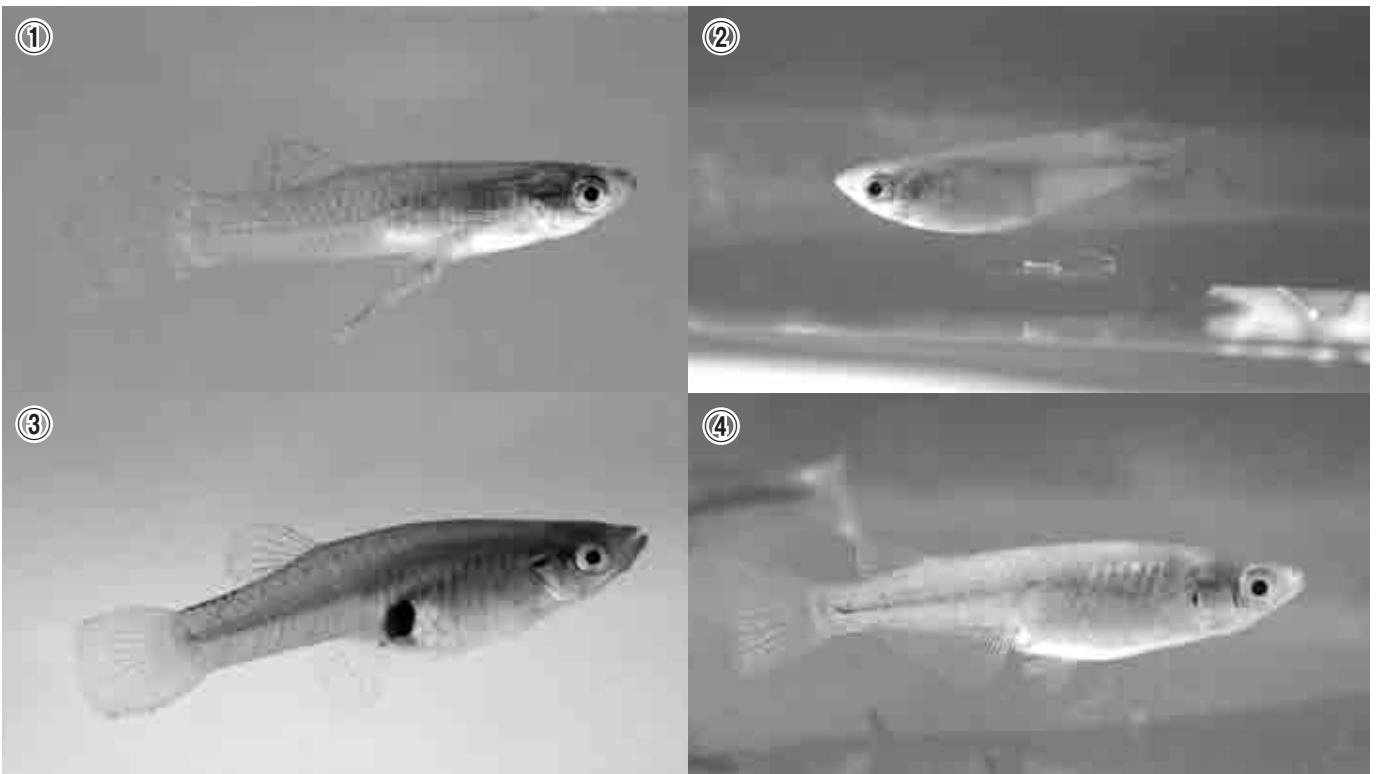


上から見たカダヤシ(左)とメダカ(右)

## カダヤシとメダカの見分け方を説明したイラスト

メダカのオス	オスは背びれの下部に切れ込みがある	カダヤシのオス <small>カダヤシのオスはメスより小さい</small>
メダカのメス	オスの尻びれはメスよりひろい	カダヤシのオスは尻びれが交接器になっている
メスの尻びれはオスよりせまい	メダカの尾びれは直接的に切れている	カダヤシのメス
		カダヤシの尾びれは丸みをおびる

## カダヤシとメダカの違い分かりますか？



答え ①カダヤシのオス ②メダカのオス ③カダヤシのメス ④メダカのメス

## ②「ミシシッピアカミミガメ」 「要注意外来生物」

一九五〇年代後半にペットとしてアメリカからやってきました。耳の後ろに帯状の赤い部分があるため、アカミミガメと名が付きました。

五センチほどの子ガメが「ミドリガメ」として売られています。寿命は三〇年と長く、体長二〇センチ近くまで大きくなります。

小さいうちは飼育が簡単ですが、成長すると攻撃的になることもあり、管理しきれずに捨てられ、野外繁殖で数が増えています。



▲特徴的な顔の模様



▲子ガメとの比較



▲捕獲した大型のミシシッピアカミミガメ



▲陸地で甲羅干しをしているミシシッピアカミミガメ

甲羅の色が特徴的で、緑色で黄色の模様がありますが、高齢の個体は黒っぽくなり、別のカメに見えます。農業用水路や川等で甲羅干しをしているアカミミガメをよく見かけます。密集して生息し、在来のカメとエサや日光浴の場所が重なっているため、在来カメの減少に大きな影響を及ぼしています。



③ **オオキンケイギク**  
「特定外来生物」

町内のいたるところで見かけることができるオオキンケイギクです。和名は「大金鶏菊」がもとになっています。

日本へは一八八〇年代に観賞用や緑化用に導入されました。一面に花がそろうと美しく、特定外来生物に指定される前は「オオキンケイギク祭り」が行われていた地域もあるそうです。

オレンジ色の美しい花をつけますが、繁殖力が強く、他の植物の生息場所を奪ってしまします。



▲オオキンケイギク



▲群生するオオキンケイギクの様子

**外来生物被害の  
予防についてのお願**

日本の野外には、外来種が二〇〇種以上も生息・生育しているといわれています。これらがすべて問題となっているわけではありませんが、紹介させていただいた生物のように、地域の自然にうまく入り込み、数を増やし自然をみだして問題を起す外来種がいます。

外来生物による被害をなくしていくポイントは3つあります。

- ① 「侵入を予防する」
- ② 「発見した場合すぐ対応する」
- ③ 「定着している場合、外来種の防除、管理を行う」



▲在来種のイシガメ

オオキンケイギクのように花がきれいだからといって、肥料や水をやるなど、野外にすでにいる外来生物を他の地域にまで拡げるような行為はやめましょう。

今回の特集は、幸田町内に生息する外来種をまずは知ってもらおうと企画しました。数を減らしている動物を守り、崩れかけた生態系のバランスを、少しずつでも回復するための取組が一層発展するように、町としても努力していきたいと考えています。

**問合せ**

環境課 環境保全グループ  
(内線272)